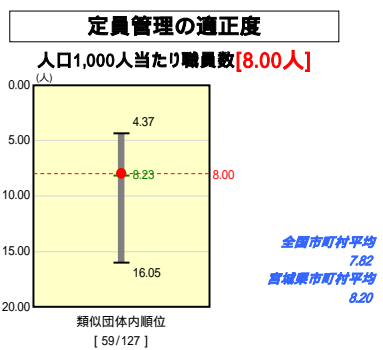
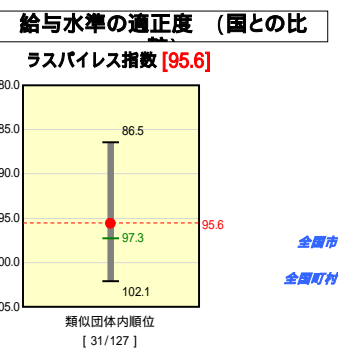
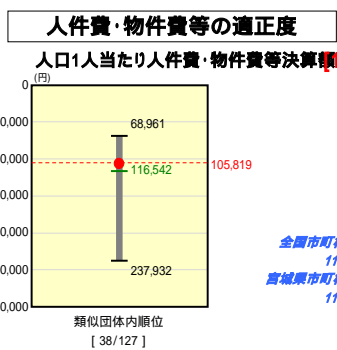
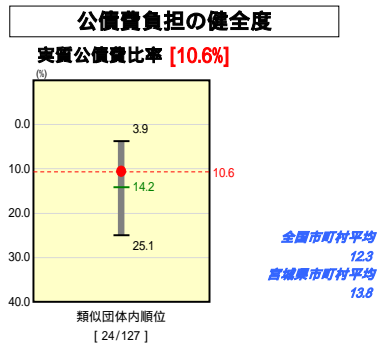
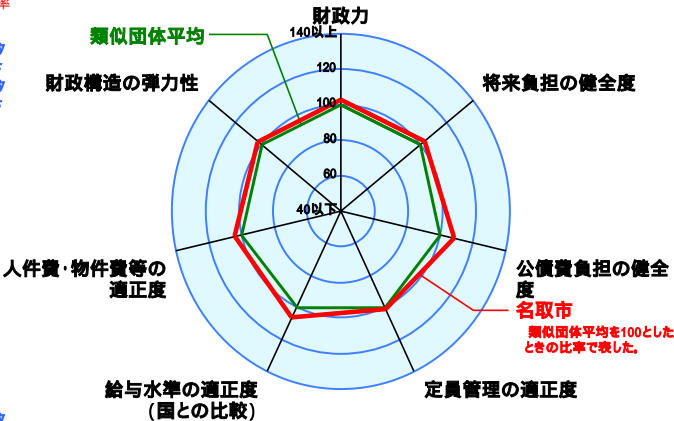
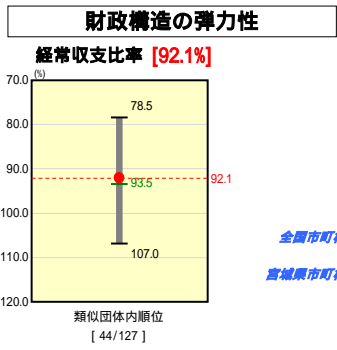
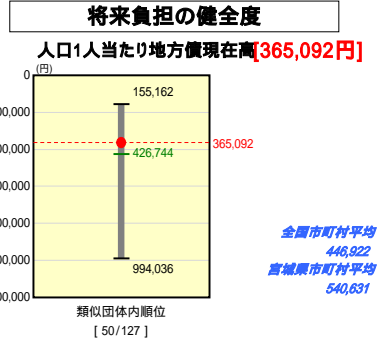
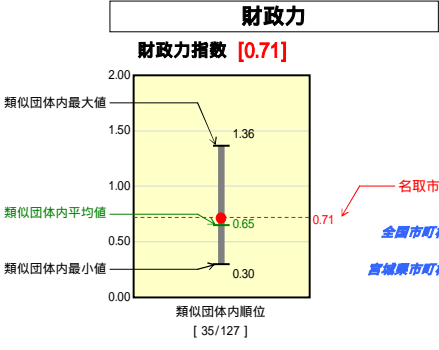


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

宮城県 名取市

人口	69,633	人(H20.3.31現在)
面積	100.06	km ²
歳入総額	21,626,666	千円
歳出総額	21,112,529	千円
	429,000	千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
ラスパイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年度地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数
平成19年度は0.71で、前年度から0.02伸びており、全国類似団体平均を上回っている。市税全体の伸びによるもので、ここ数年財政力指数は連続した伸びとなっているものの、予算編成においては財政調整基金等を取り崩しての運営が続いており、財源確保については依然として厳しい状況にある。引き続き事業の重点化を図るとともに、経常経費の削減に努める。

経常収支比率
全国類似団体平均は下回っているものの、前年度から3.9ポイントの大幅な増となった。主な要因としては、税源移譲等により地方税は増となったものの、それ以外の地方譲与税、地方交付税等が軒並み減となり、経常的一般財源収入全体では大幅な減になったこと、扶助費、公債費の増があげられる。扶助費、公債費については、今後も増加が見込まれることから、更なる経常経費削減に努める。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額
前年度とほぼ同程度となっており、全国類似団体平均を下回っている。引き続き人件費の適正化と物件費の抑制に努める。

ラスパイレス指数
前年度と同じで、全国類似団体平均を下回っている。引き続き給与の適正化に努める。

人口1,000人当たり職員数
前年度から0.11人減となっており、全国類似団体平均と同程度となっている。引き続き名取市集中改革プランに基づき、職員数の適正化に努める。

実質公債費比率
前年度より2.7ポイント減となっており、全国類似団体平均を下回っている。算定方法の変更によるところが大きい。臨空都市整備等に係る市債償還が本格化することから増加傾向になる見込みである。今後も新規発行にあたっては、後年度への影響を考慮しながら事業の厳選に努める。

人口1人当たり地方債現在高
前年度より98,819円減となっており、全国類似団体平均を下回っている。今後も新規発行にあたっては、後年度への影響を考慮しながら事業の厳選に努める。